

都島駅(地下鉄谷町線)②

蕪村のふるさと・毛馬を訪ねて



「大阪あそび歩マップ集」
その3 No.112

地下鉄都島駅

① 渡辺綱駒つなぎの樟

● 羅生門の鬼退治で有名な渡辺綱が、八幡大神に参詣したときに馬をつないだ樟です。樹齢1000年の大木でしたが、戦争で焼死しました。枯れても倒れずに人々の尊崇を集めています。

② 毛馬桜之宮公園

● 大川の毛馬橋から天満橋までの両岸約4キロに広がる公園で、両岸の桜は4800本に達し、大阪城周辺の4300本をしのぐ西日本有数の桜の名所として整備されています。

③ 春風橋

● 淀川に並行して流れる城北運河に架かる橋で、昭和56年(1981)竣工、蕪村の句「春風や 堤長うして 家遠し」から名づけられました。

④ 淀川神社

● 淀川河口の海賊取り締まりのために配備された武士が、当時有名だった15の神社の守護神を祀ったのが起こりで、十五神社(都島神社は十五社神社)と呼ばれていました。

⑤ 蕪村公園

● 平成21年(2009)に開園したばかりの蕪村を顕彰する公園で、「春風馬堤曲」に詠われている毛馬の堤を再現しています。園内に、蕪村自筆の13句を刻んだ句碑があります。

⑥ 蕪村生誕地の碑

● 俳人・与謝蕪村は享保元年(1716)毛馬村生まれ。江戸で俳句の修

業をし、芭蕉にあこがれて各地を遊行しました。42歳で京都に居を構え、俳句と画業に専念します。須磨の海の「春の海 ひねもすのたり のたりかな」、毛馬から茶屋町にかけての「菜の花や 月は東に 日は西に」など、大胆な写実性に富む革新的な俳句を残しました。淀川への望郷を詠った「春風馬堤曲」「瀬河歌」があります。蕪村は一度も帰郷を果たさず、天明3年(1783)に逝去しました。毛馬村は、いまは新淀川の水の底です。



⑦ 毛馬洗堰・毛馬閘門

● 淀川改修工事とともなって、明治40年(1907)に、新淀川の水量

を調節する洗堰と、新淀川と大川の水位を調整して船の航行を可能にする閘門が完成しました。閘門は、初代は両端の水門を手動で開け閉めする構造で、赤レンガの側壁とともにいまも保存されています。近代産業遺産として、平成20年(2008)に国の重要文化財に指定されました。現在の閘門は3代目で、電動で水門が開閉されます。



市バス毛馬橋停留所

蕪村公園前から大阪駅方面への市バスが出ています。

